

X大学のミッション：地域の知の中核拠点として、地域との協創を強化し、新たな価値創造を支える人材の輩出や地域イノベーション創出などの機能を十分に発揮すると共に、強み・特色ある分野で全国的・世界的な教育研究を推進する。

地方X大学の活動の状況：地域資源を活用した実践的な教育プログラムから良質な人材を育成輩出する一方で、その基盤となる研究については、社会の課題に対応した学際的領域も含め、活発な活動が行われている。

活力ある持続的発展には、トップリーダーだけではなく、それも含め多様性に富む良質な人材層が不可欠。
X大学は地域の基幹総合大学として**研究や人材育成の多様性を支え、良質な人材層の形成に大きく寄与。**

社会状況の変化（人材養成の観点から）

- 18歳人口の激減と長寿社会
18歳進学者の減、リカレント教育の拡大
- グローバル化による競争激化
人材獲得競争＝養成人材の質維持・向上
- 第四次産業革命と超スマート社会
労働市場の規模、要請される人材の変化？



地方国立X大学の入学者変化

2017の実態

入学定員：1500名

入学者出身地：東北、関東を中心に

平均偏差値：60（61-59）

2040の予想図

同じ偏差値に保つなら**入学者は1115人に減少**

入学者の質を維持する場合

1. **母集団を増やして入学者を確保 385名を確保できる？**
 高大接続強化、入試広報充実や多様な入試等→大幅増は困難。経済支援により合格偏差値以上の進学困難者の増も見込めるが限界あり。
 - 留学生
 - ・教育内容と質向上、国の魅力
 - ・広報や試験の共同実施
 - ・共同海外キャンパス（困難？）
 - ・対応できる教職員の確保は？
 - 社会人
 - ・正規入学者数に？リカレント教育は短期プログラムor大学院？
 - ・学ぶことによる付加価値は？
 - ・産業界の対応や待遇、転職風土
 - シルバー世代
 - ・University of the Third Ageの推進
2. **入学者を減らす**
 バーチャルなX大学では**385名 約25%の減**
 入学者減に対応した予算減と教職員の減少→**教育や研究の質の劣化**
 - ニースの低い分野の定員削減・廃止
 - 大学院定員振替 **どこまで需要があるか？**
 - ・学部定員のバスターで、修士を中心に大学院定員を増やす。
 - ・リケジョなどに多い未進学者、社会人などの開拓。
 - ・リカレント教育充実＝魅力的な教育プログラム、夜間や休日開講

入学者の質低下を容認する場合

3. **偏差値レベルを下げて入学者確保 選択しにくい**
 X大学の場合、**平均偏差値は60から56程度に低下**
 - 国立大学の質的転換に？
 地域の知の中核拠点として、良質な人材輩出・技術革新の質が維持できるか？
 - 輩出人材の質保証は？
 教育改善の実質化がどこまで効果を持つか？



どんな戦略・施策？

1. 地域からの信頼感をUp・出口需要の開発
 地域との協創強化、産官学連携による地域でのイノベーション創出と実用化
2. アンブレラ型国立大学法人により圏域での機能強化
 + 国公私の地域大学連携プラットフォームでの協働
3. 研究力Up 若手教員層の強化と学際的研究の活性化
4. 学生のダイバーシティ拡大（地理的と世代）
 人数の確保だけでなく質向上の面で重要

注) ここでのX大学は言うまでもなくバーチャルな存在です。